



わかしお

糸魚川市立能生小学校
学校だより NO. 9
令和3年8月27日

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。以下の4点にご留意ください。

- 1 週末の不要不急の外出の自粛
- 2 感染防止の徹底（マスク、手指消毒、3密対策、換気等）
- 3 検温をはじめとする健康管理の徹底
- 4 感染してしまった人への人権上の配慮の徹底

※市教委からの指導事項

「がんばり歩こう会」⇒「わかフレ歩こう会」へ

18年間続いてきた伝統ある「がんばり歩こう会」。卒業生に、「能生小学校の思い出は？」と聞くと、何人かの方は、「がんばり歩こう会！」

とおっしゃいます。

○「終了時刻まで、とにかくがんばって走り続けた。」

○「去年の自分の記録を越そうと目標をもって走った。」

など、まさに「がんばり歩こう会」の名称の通りのがんばりがあったようです。名称と違うのは、「歩こう」ではなく、「走ろう」だったようです。

以前は、最長、名立の鳥ヶ首岬（往復 29.2km）までを6時間かけて歩いていたと聞き、当時の子どもの頑張りに大変に驚いています。

一方、走るのが苦手だった方は、このようなことをおっしゃいます。

「ゆっくりと景色を眺めながら、友だちとおしゃべりして歩いた。」

これもステキな時間です。この学校だよりをお読みの卒業生の皆さんは、いかがだったでしょうか？

このように、素晴らしい「がんばり歩こう会」ですが、昨年度、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、縮小となりました。お弁当をみんなで集まって食べることや、長時間、同じ仲間と行動することが、感染拡大につながる恐れがあるということで、学校に帰ってからお弁当を食べることになりました。午前中に帰校ですから、必然的に歩く距離は短くなります。3年生以上は、最長、藤崎ふれあい会館（往復 10.6km）までのコースとなりました。（残念ながら荒天のため中止）

しかし、この伝統ある「がんばり歩こう会」ですが、時代とともに以下の意見が大きくなってきました。



①児童の安全確保への不安

3年生以上の子どもは、3～4人のグループで歩行。昨今、熱中症等や、不審者・誘拐等の犯罪がより深刻。過去には、グループが自然解散し、一人で歩く児童が現れたり、嘔吐や体調不良者が出たりした。ボランティアを募りサポートしているが、長距離をバラバラに歩いていると、道中でトラブルが発生しても、職員が瞬時に把握・対応できないので不安。

②全校が同じ目標で取り組める活動

1・2年生は担任引率で学年ごとに歩いていた。学校行事なので、全校で同じ目的で取り組みたい。

また、人間関係の希薄化が叫ばれて久しい昨今です。学校では、学級・学年という同学年だけでなく、縦割り班での異学年交流にも力を入れています。現在、清掃や、わかフレ班遊び、スポーツテスト等、意図的に交流を深めていますが、今以上に異学年交流を深化したいと思案していました。

そこで、従来の「がんばり歩こう会」の趣旨を生かしつつ、上記の意見を踏まえた新たな取り組みはないかと考え、以下のように変更することにしました。

【名称】

わかフレ歩こう会

【ねらい】

- 縦割り班で歩いたり、遊んだりすることを通して、リーダーシップやフォロアーシップを養い、相手を尊重したり、自主性を高めたりする。
- 全校児童が百川（あみだ堂。往復7km）までの道のりを歩き通す経験を通して、協力してやり遂げた満足感を味わう。

【方法】

- 1～6年生が混在する、10・11名の縦割り班（わかフレ班）ごとに行動する。（一緒に行動する2つのわかフレ班に、職員が1人同行）
- 上学年は、下学年の面倒を見て判断・行動（リーダーシップ）し、低学年は上学年や班のことを考えながら行動（フォロアーシップ）する。
- 合計5か所のチェックポイントを設定する。班のメンバーでクイズをクリアすることを励みに、楽しく歩く。
- 糸魚川（能生）のジオパークの景観を楽しみながら歩き、地域の自然の美しさを体感する。



「子どもの体力低下が心配」というお考えもあるかと思います。学校では体育の授業を中心に、体力向上に今後も取り組んでまいります。

帰校した子どもたちが、「わかフレ班のみんなと協力してがんばって歩いて楽しかった！」と言える活動にしたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本日、「わかフレ歩こう会」（保護者ボランティア募集）の案内を配付しました。都合がつく方は、ぜひご協力をお願いいたします。

